

安全データシート

ページ: 1/12

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 16. 08. 2024

製品: PLASTOMOLL® DNA

バージョン: 8.2

(30034726/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

1. 化学品及び会社情報

品名:

PLASTOMOLL® DNA

用途: 可塑剤

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

OVOL 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

本製品は、GHS分類基準に該当しない。

【GHSラベル要素】:

本製品は、GHS基準により有害性警告表示を必要としない。

GHS分類に関係しない又は GHSで扱われない他の危険有害性:

この項に、有効な情報の記載がある場合、それは、GHS分類の結果ではなく、物質もしくは混合物の総合的な危険性に寄与する可能性があるGHS分類以外の危険性に関するものである。

12章のPBT（難分解性、生物蓄積性、毒性を有する物質）とvPvB（難分解性と生物蓄積性が極めて高い物質）の評価結果を参照。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

アジピン酸ジイソノニル

CAS番号: 33703-08-1

化審法: (2)-861

労働安全衛生法: (2)-861

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:
汚れた衣服は取り替える。

[吸入した場合]:
安静にし、新鮮な空気のある場所に移動させること。

[皮膚に付着した場合]:
石鹼と水で完全に洗い流すこと。

[眼に入った場合]:
直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:
口をすすぎ、そして200-300mlの水を飲む。

[医師に対する特別な注意事項]:
症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。
処置: 症状に応じて処置（洗浄・機能回復）を講じる。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:
粉末, 噴霧水, 二酸化炭素, 泡

[使ってはならない消火剤]:
棒状放水

[追加情報]:

周囲の環境に適した消火方法をとること。

[火災時の特有の危険有害性]:

本品は可燃性である。容器を噴霧水で冷却する。製品安全データシートの第7項の取り扱い及び保管上の注意を参照すること。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器を着用のこと。消防士のための特別な保護具

[追加情報]:

関係者以外を立ち入り禁止。消火作業は可能な限り火から離れて行うこと。

[追加情報]:

消火対策を周囲に拡張する。汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:

労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。

[環境に対する注意事項]:

環境への流出を避けること。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

適切な器具を用い回収し、廃棄すること。こぼれた製品は回収し、固化させ、廃棄用の適切な容器に入れる。法令に従って吸着剤を廃棄すること。

[追加情報]: 漏出／流出により床が滑りやすくなるので注意する。

漏出の原因を遮断又は停止させる。物質/製品の漏出は安全な条件下で遮断又は停止させること。

廃棄する為には固く閉めた容器に詰める。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。

安全取扱注意事項:

注意事項は特になし。物質/製品は引火性なし。

[保管]

保管条件に関する追加情報: 容器は密閉して乾燥した場所に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

物質固有の職業曝露限界値は知られていない。

[設備対策]

システム設計に関する助言:

蒸気/ミストを制御するために局所排気装置を使用すること。

【保護具】

[呼吸用保護具]:

換気が不十分な場合は、呼吸保護具を着用すること。有機化合物（沸点65℃以上）のガス／蒸気用ガスフィルターEN 14387 A型

[手の保護具]:

耐薬品性保護手袋（EN ISO 374-1）

長時間の直接接触でも問題ない素材（保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること。）:

ニトリルゴム（NBR）、肉厚0.4 mm

ブチルゴム（ブチル）、肉厚0.7 mm

種類が多岐にわたるため、製造業者が指示した方法を遵守すること。

補足：仕様は、試験、文献データ及び手袋製造業者の情報に基づくもの、あるいは類似の物質から類推されたものである。条件が多いため（温度など）、耐薬品性保護手袋の実際の使用時間は試験で別途得られた物質透過時間よりもかなり短いと考えなければならない。

[眼の保護具]:

サイドシールド付き安全眼鏡（フレームゴーグル）（例 EN 166）

[皮膚及び身体の保護具]:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等（飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。）。

[一般的な安全及び衛生対策]:

労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。所定の保護具に加えて、上下一体型作業衣の着用が必要である。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	液体
色:	ほぼ無色
臭い:	ほぼ無臭
臭いのしきい値:	測定されていない。

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 16. 08. 2024
製品: PLASTOMOLL® DNA

バージョン: 8.2

(30034726/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

pH:	適用せず, 極めて難溶	
流動点:	-65 ° C	
沸点:	232 ° C (6.7 hPa) 文献データ 常圧においては、分解なしで蒸留することはできない。	
引火点:	210 ° C 文献データ	
蒸発率:	値は、ヘンリー則定数もしくは、蒸気圧から類推することができる。	
可燃性 (固体/ガス):	引火性ではない。	(その他)
爆発下限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。、爆発下限界は、引火点より5-15°C低い可能性がある。	
爆発上限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。	
自然発火温度:	330 ° C	(DIN 51794)
熱分解:	通常の手扱い条件下で危険分解物なし。	
自己発火性:	温度: 20 ° C 自己発火性なし。	
爆発危険有害事項:	爆発性なし。	(その他)
火災を引き起こす性質:	火災伝播性はない。	(その他)
蒸気圧:	< 0.00001 Pa (20 ° C)	(測定)
密度:	0.9225 g/cm ³ (20 ° C)	(比重瓶)
相対密度:	0.918 – 0.922 (20 ° C)	
相対ガス密度 (空気):	13.7 (20 ° C) 空気より重い。	(算出)
水に対する溶解性:	< 0.1 mg/l (25 ° C)	

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 16. 08. 2024
製品: PLASTOMOLL® DNA

バージョン: 8.2

(30034726/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

溶解度（定性的） 溶媒: 有機溶媒
可溶

n - オクタノール/水分配係数（log Pow）: 9.56 - 10.4 (OECDテストガイドライン 117)
(25 ° C)

吸着/水-土壌: KOC: 140800; log KOC: 5.15 (算出)
土壌の固相に吸着すると考えられる。

揮発性/水-大気: (算出)
水面から大気中へ徐々に揮発する。

表面張力:
化学構造に基づき、表面活性は期待できない。

粘度: 17 - 21 mPa. s (動粘度から計算)
(20 ° C)
この値は、測定された動粘度に基づいて算出された。

モル質量: 398.63 g/mol

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:
化学製品に関する適切な管理を行うこと。それ以外には特別な予防措置はない。

熱分解: 通常の手扱い条件下で危険分解物なし。

[混触危険物質]:
強酸化剤

金属の腐食: 金属に対する腐食性なし。

[危険有害な分解生成物]:
強酸化剤と反応する。

[危険分解物]:
通常の手扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:
製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:
指示通りの貯蔵と手扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性経口毒性

実験または計算によるデータ:

LD50 (半数致死量) ラット (経口): > 5,000 mg/kg (OECDテストガイドライン401)

死亡なし

急性吸入毒性

LC50 (半数致死濃度) ラット (吸入による): > 5.7 mg/l 4 h (OECDテストガイドライン403)

死亡なし 本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。エアゾールで試験した。

急性毒性の評価

単回の経口摂取であれば、実質上毒性はなし。吸入による毒性は実質上なし。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:

眼及び皮膚に対して刺激性なし。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 刺激性なし (OECDテストガイドライン404)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 刺激性なし (OECDテストガイドライン405)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

化学構造は感作作用を示唆していない。

実験または計算によるデータ:

感作性なし ((Q)SAR Model)

Draize試験 モルモット: 感作性なし

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。文献データ

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

細菌類および哺乳類の培養細胞を用いた種々の試験において、変異原性は認められなかった。哺乳類を用いた試験では、変異原性を示さなかった。この製品は、完全には試験が行われていない。これらの記述は、類似の構造もしくは、類似の組成の製品から得られたものである。

発がん性

発がん性の評価:

ラットおよびマウスを用いた長期試験において混餌投与した結果、発癌性は認められなかった。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

生殖毒性**生殖毒性の評価:**

動物実験の結果から、生殖能力低下は認められなかった。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

発生毒性**催奇形性の評価:**

動物実験において、母体毒性を示さない濃度では生殖能力の低下は認められなかった。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用できる情報に基づく、単回ばく露後に予測される特定標的臓器毒性はない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）**反復投与毒性の評価:**

この製品について入手できる情報では、反復暴露後に特定標的臓器毒性の兆候はない。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

誤えん有害性

予測される吸入危険性はない。

12. 環境影響情報**生態毒性****水生生物に対する毒性の評価:**

水生生物に対して急性の有害性はほとんどないと考えられる。廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。長期(慢性)の毒性試験データに基づき、製品は、水生生物に対して高い確率で有害でない。

魚類に対する毒性:

LC50（半数致死濃度）(96 h) > 500 mg/l, ウグイ（学名Leuciscus idus）(DIN 38412 第15部, 止水式)
名目濃度

水生無脊椎動物:

EC50 (48 h) > 100 mg/l, オオミジンコ（学名：Daphnia magna）(EU指令 79/831/EEC, 止水式)

名目濃度 本品は試験培地への溶解度が低いため、可溶化剤を用いて溶解させた水溶液で試験を行った。

水生植物:

EC50 (72 h) > 100 mg/l (成長率), 緑藻 (学名: *Scenedesmus subspicatus*) (その他, 止水式)

名目濃度 本品は試験培地への溶解度が低いため、可溶化剤を用いて溶解させた水溶液で試験を行った。

微生物/活性汚泥への影響:

EC20 (20%影響濃度) (0.5 h) > 1,000 mg/l, 家庭廃水由来の活性汚泥 (DIN EN ISO 8192-OECD 209-88/302/EEC 第C, 好気性)

魚類に対する慢性毒性:

試験は、科学的に正当化されていない。

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:

無影響濃度 (21 日), > 0.77 mg/l, オオミジンコ (学名: *Daphnia magna*) (OECDテストガイドライン 202-2, 半止水式)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。溶解度の範囲内では、毒性を示さない。

類似データから類推

陸生生物に対する毒性の評価:

土壌生物:

LC50 (半数致死濃度) (14 日) 865 mg/kg, シマミミズ (学名: *Eisenia foetida*) (EU指令 88/302/EEC, part C, p. 95, 人工土壌)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

類似データから類推

その他の陸生非哺乳動物:

試験は、科学的に正当化されていない。

移動性

環境区分間の輸送評価:

水面から大気中へ徐々に揮発する。

土壌の固相に吸着すると考えられる。

残留性・分解性

生分解性及び除去率の評価 (水中環境):

生分解性良好 (OECD基準による)

除去情報:

> 90 % CODに対するBOD (28 日) (OECDテストガイドライン301F、ISO 9408、92/69EEC, C. 4-) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥) 易生分解性である。

水中での安定性評価:

構造特性から加水分解はされないと考えられる。

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:
生物体内に蓄積しない。

生体蓄積性:
生物濃縮係数: 27 (28 日), ブルーギル (学名: *Lepomis macrochirus*) (測定)
本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。
類似データから類推

[追加情報]

その他の環境毒性情報:
廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。未処理で河川等に流さないこと。

13. 廃棄上の注意

国あるいは地方の法令に従って廃棄すること。

[汚染された容器]:
正式な規則にしたがって廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

	輸送規則では危険有害性物質に分類されていない
国連番号もしくはID番号	非該当
品名 (国連輸送名):	非該当
国連分類 (輸送における危険有害性クラス):	非該当
容器等級:	非該当
環境有害性:	非該当
使用者への特別注意事項	知見なし

海上輸送

IMDG
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

国連番号もしくはID番号:	非該当
品名 (国連輸送名):	非該当
国連分類 (輸送における危険有害性クラス):	非該当

Sea transport

IMDG
Not classified as a dangerous good under transport regulations

UN number or ID number:	Not applicable
UN proper shipping name:	Not applicable
Transport hazard class(es):	Not applicable

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 16. 08. 2024
製品: PLASTOMOLL® DNA

バージョン: 8.2

(30034726/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

容器等級:	非該当	Packing group:	Not applicable
環境有害性:	非該当	Environmental hazards:	Not applicable
	海洋汚染物質: 非該当		Marine pollutant: no
使用者への特別注意事項	知見なし	Special precautions for user	None known

航空輸送

IATA/ICAO

輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

国連番号もしくはID番号: 非該当

品名 (国連輸送名): 非該当

国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 非該当

容器等級: 非該当

環境有害性: 非該当

使用者への特別注意事項: 知見なし

Air transport

IATA/ICAO

Not classified as a dangerous good under transport regulations

UN number or ID number: Not applicable

UN proper shipping name: Not applicable

Transport hazard class(es): Not applicable

Packing group: Not applicable

Environmental hazards: Not applicable

Special precautions for user: None known

指針番号: 171

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

15. 適用法令

消防法: 第4類, 第4石油類, 非水溶性

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (JP)

係数: 1

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (JP)

任意の濃度に適用:

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (Ministerial Ord.) Data (JP)

係数: 1

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

その他の規則

海洋汚染防止法 有害液体物質（Y 類同等の物質）

16. その他の情報

【JIS Z 7252/7253 : 2019 準拠】 本 SDS に記載されていない必要項目は、情報が無いことを示す。

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。